

障大連 小規模店舗(飲食店・市街地3エリア130店)調査報告(2022.9.1)

設計標準改正資料より抜粋

【出入口・店舗内部の通路の確保等】

- ・出入口の有効幅員は80cm以上とし、その前後には高低差がないものとする。
- ・店舗内及び通路には段差を設けない。
- ・通路は、車椅子使用者等が円滑に移動できる有効幅員90cm以上を確保する。

【モデル・設計例】



●改修による自動式引き戸の設置、出入口前後の高低差の解消

これは
好事例

実際はどうか？
大阪の「まち」
小規模店舗
「出入口」を調査



「建築設計標準(建築基準法のガイドライン)」の改正を受け、大阪府福祉のまちづくり条例ガイドラインの改定が予定されています。

そこで、私たちは大阪の小規模飲食店の「出入口」バリアフリー調査を行いました。(3エリア・130店舗)

調査により、店舗入口段差だけでなく、店舗と歩道の「境界」にある段差(溝)によって入店できない店舗が非常に多いことがわかりました。

小規模店舗【飲食店】調査 概要

(大阪市内市街地・谷町四51、天満63、北浜16)全130店舗(※1)

障大連:2022.8月31日

		天満橋	天満	北浜	平均
調査店数(139店)		51	63	16	
○	道路から店内まで入れる店舗数(※2) [うち、スロープ等で入店可能な店数]	7[2]	10[1]	4[2]	
	割合	13.7%	17.5%	25.0%	18.7%
△	道路から店内まで簡易スロープ・溝蓋があれば入れる店舗数(※3)	9	16	6	
	割合	17.6%	25.4%	37.5%	26.8%
合計(○+△)		31.4%	42.9%	62.5%	45.6%

(※1)複合ビル、地下飲食店街等は除く

(※2)段差なしで、かつ、出入口幅80cm以上の店

(※3)段差1段のみ、かつ、1~10cm未満

●18.7%が45.8%となるよう、条例やガイドライン、行政による事前協議制度の有効活用等が必要。

わかったこと

車いす利用者が入れる飲食店は2割も無い。この上、店内段差・通路幅・固定椅子等で更に減。

でも

歩道と店舗の「境界」段差(※3)を↓下写真のようにすれば入店可能店が2倍に



まとめ

- 駅ビルや地下街等エリアを除き、市街地での飲食店調査を行った。
- まとめた感想は2点。
 - ・ 市街地には、200㎡以下（府条例では努力義務・事前協議対象）の店舗が非常に多い。
 - ・ 調査店舗中、車いすの入店可能店舗が2割にも満たなかった。（店舗内の構造以外条件での調査）
- 今後検討いただきたいこと
 - ・ 障害者の声を確実に反映し、ガイドライン内容の充実及びガイドラインを活用した事前協議制度を有効に進めるしくみづくりについて検討を行い、200㎡以下の入店可能店舗を確実な増加を進めていただきたい。
 - ・ 検討にあたり、例えば、「2035年度までに小規模店舗70%を適合化」のような、今後の目標を想定いただきたい。

小規模店舗 と 牛丼

かつて（昔）

車いす利用者は、店で牛丼を食べられない・・・が常識！？
入口に段差がある。全部固定いす、高いカウンター席だけ。



府内全店438店舗

今は？ 大阪府内275店舗(63%)を調べてみました。

全体の約60%はバリアフリー。ちょっとした介助があれば約75%は
店で食べられます。チェーン店によっては約90%がバリアフリー！

近い将来...

府福まち条例の改正があれば...

ガイドライン次第で...

コンビニのように、牛丼屋＝バリアフリーが当たり前！？

牛丼 大阪府内(275店舗)

大阪市・東大阪市・堺市・泉大津市・岸和田市の全店舗

2022.8

	○		△		×		全店舗数
	店舗数	パーセント	店舗数	パーセント	店舗数	パーセント	
すき家	65軒	81%	6軒	8%	9軒	11%	80軒
なか卯	36軒	67%	12軒	22%	6軒	11%	54軒
松屋	32軒	48%	13軒	20%	21軒	32%	66軒
吉野家	31軒	41%	10軒	13%	34軒	46%	75軒
合計	164軒	60%	41軒	15%	70軒	25%	275軒

○=入口段差なし・テーブル席あり

△=入口段差あり・テーブル席ありなど。介助あれば入れる(実際に車いす利用あり)

×=入口段差あり・テーブル席なし

・ 調査は、ネット検索+電話問い合わせ+現地確認を組み合わせました。

バリアフリーは自然に進むのか？

隣の店には鉄板
スロープあり



テーブル席あり、段差無し。ただ溝があって車いすでは中に入れない。隣の店には鉄板があり、入れます。(右上写真) 改修したばかりの店なのに...



こちら側
はスロープにする
スペース
はあるの
に...



店内はテーブル席もあり独立店舗。入口は2つありどちらも段差。狭い方の入口には簡易スロープあり。二重開き戸も車いすでは入りにくい。

③

チェーン店の公式ホームページを見るとスロープあり



スロープ設置は簡単なのに？

独立店舗で駐車場も広く、スロープを設置するスペースは十分あります。ホームページの写真ではスロープあり。勘違いしちゃいます。

④



チェーン店の公式ホームページを見るとバリアフリー



チェーン店の公式ホームページでは「バリアフリー」ですが、店の前には段差あり。バリアフリーは会社基準とのことですが、ちょっと困ります。

調査してわかったこと

●牛丼店の多くは20㎡～40㎡の面積。50㎡以下なので、大阪府福祉のまちづくり条例の対象外だが、こうした店は非常に多く、毎日の生活に直結している。

○小規模店舗ガイドラインを大阪でつくるなら、障害者も、普通に入れて普通に食べられることが大切。

●データから見えること

チェーン店によってバリアフリー度に大きな違いがある。すき家はほぼ9割がバリアフリー、全店テーブル席あり。ただ吉野家でも5割はバリアフリーでテーブル席も増えてきている。これはファミリー層を意識しているためだが、電話すると「段差はありますが、車いす手伝いますのでどうぞ来てください」という店がほとんどだった。

調査してわかったこと

- ① 今年8月にリニューアルしたばかり。テーブル席もあり、自動ドア。ところが車いすで入れない。入口に溝がある。隣の店は鉄板があるのに。。
→ 設計者は溝が車いすが入れないことに気づいていない。
- ② 独立店舗(新築で駐車場あり) テーブル席もあり、店内も広い。ところが入口は2つあるがどちらも段差あり。片方には簡易スロープがあるが、急で狭く車いすではちょっと厳しい。ドアは二重の開き戸で入りにくい。実は調査してみると、狭い店の多くは自動ドアか引き戸なのに、独立店舗ほど開き戸が多い。
- ③ 入口に1段の段差がある店が多い。スロープにするのも簡単そうに見える。このチェーン店では公式ホームページを見ると、写真にはスロープがある。ところが実際の店にはスロープはない。他の店を検索して分かったがホームページの写真は店が違っていても同じ写真でした。

調査してわかったこと

- ④ このチェーン店は公式ホームページで、テーブル席あり・バリアフリー・24時間営業などの情報があり、大変助かります。ところが・・・
「バリアフリー」とあるのに、実際の店には段差がある。どういうこと？
本社に電話してみました。「バリアフリーの基準は特に決まっていません。バリアフリーかどうか(段差があるかないか)は店で直接確認してください」とのこと。ん！？

※一見バリアフリーですが、入口付近が狭くて、テーブル席まで車いすでは行けない店がいくつもあります。

お願いしたいこと

小規模店舗の課題を整理し、ガイドラインを作ったら会社側にきちんと説明会などで情報を届けてください。
会社はバリアフリーは意識していますが、勘違いしていたり、理解が不十分だったりします。簡単に解消できるバリアも多く、会社ごとの基本的な設計の改善も必要です。



スロープの真ん中に柱がある店。なんでこんな設計になるんでしょう？

飲食店舗のイメージ



ガイドラインを
絵に描いた餅に
しないで!!

国の小規模店舗ガイドラインより